【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】令和4年2月7日(2022.2.7)

【国際公開番号】WO2019/134925
【公表番号】特表2021-509928(P2021-509928A)
【公表日】令和3年4月8日(2021.4.8)
【出願番号】特願2020-537140(P2020-537140)
【国際特許分類】
C08G 18/00(2006.01)
C08G 18/63(2006.01)
C08G 18/65(2006.01)
C08G 18/10(2006.01)
C08G 18/48(2006.01)
B60C 1/00(2006.01)
C08G101/00(2006.01)
【FI】
C08G 18/00 L
C08G 18/63 020
C08G 18/65 052
C08G 18/10
C08G 18/48 041
B60C 1/00 Z
C08G101:00

【手続補正書】
【提出日】令和3年12月28日(2021.12.28)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
非空気入りタイヤであって、ポリウレタンマトリックス材料および前記ポリウレタンマトリックス材料中に分散された熱可塑性発泡性ポリマー材料を含んでなるポリウレタン複合層を備え、
前記ポリウレタンマトリックス材料を、以下の成分：
（Ａ１）ポリイソシアネート組成物と、
（Ｂ１）少なくとも１つのポリアルキレンオキシド系ポリエーテルポリオールであって、２０００～７０００ｇ／モルの数平均分子量（ＧＢ／Ｔ７３８３－２００７：水酸基価のための試験方法に従って算出）を有し、前記ポリエーテルポリオールの総重量に対して１５～３５重量％の固体粒子を含有する、ポリアルキレンオキシド系ポリエーテルポリオールと、
（Ｂ２）１つ以上の鎖延長剤と、
（Ｂ３）１つ以上の触媒と、
（Ｂ４）１つ以上の発泡剤と
を含んでなる反応によって得る、非空気入りタイヤ。
【請求項２】
前記熱可塑性発泡性ポリマー材料の含有率が、前記ポリウレタン複合層の重量が１００重

量％であることに基づいて、１０～５０重量％、好ましくは１０～３５重量％である、請求項１に記載の非空気入りタイヤ。
【請求項３】
前記熱可塑性発泡性ポリマー材料が、発泡性熱可塑性ポリウレタン、発泡性ポリエチレン、発泡性ポリプロピレン材料および発泡性酢酸ビニルからなる群から選択される１つ以上である、請求項１に記載の非空気入りタイヤ。
【請求項４】
非空気入りタイヤの製造方法であって、前記非空気入りタイヤは、ポリウレタンマトリックス材料および前記ポリウレタンマトリックス材料中に分散された熱可塑性発泡性ポリマー材料を含んでなるポリウレタン複合層を備え、前記方法は以下の工程：
１）前記熱可塑性発泡性ポリマー材料を、前記ポリウレタン複合層を成形するための金型キャビティに添加して、遠心式回転により前記熱可塑性発泡性ポリマー材料を前記金型キャビティ中に均一に分布することと、
２）前記金型キャビティ中に前記ポリウレタンマトリックス材料を成形するためにポリウレタン系を射出し、前記ポリウレタン系は遠心発泡成形に付し、硬化して前記ポリウレタン複合層を得ることと、
３）前記ポリウレタン複合層から前記非空気入りタイヤを得ることと
を含んでなり、
前記ポリウレタンマトリックス材料を、以下の反応成分：
（Ａ１）ポリイソシアネート組成物と、
（Ｂ１）少なくとも１つのポリアルキレンオキシド系ポリエーテルポリオールであって、２０００～７０００ｇ／モルの数平均分子量（ＧＢ／Ｔ７３８３－２００７：水酸基価のための試験方法に従って算出）を有し、前記ポリエーテルポリオールの総重量に対して１５～３５重量％の固体粒子を含有する、ポリアルキレンオキシド系ポリエーテルポリオールと、
（Ｂ２）１つ以上の鎖延長剤と、
（Ｂ３）１つ以上の触媒と、
（Ｂ４）１つ以上の発泡剤と
の反応によって得る、方法。
【請求項５】
少なくとも２つの車輪を備え、３０ｋｍ／時未満の速度を有する非自動車の製造における、請求項１～３のいずれか一項に記載の非空気入りタイヤの使用。
【請求項６】
少なくとも２つの非空気入りタイヤを備える非自動車であって、前記非空気入りタイヤの少なくとも１つは、請求項１～３のいずれか一項に記載の非空気入りタイヤである、非自動車。